

(様式1・小学校用①)

令和6年度 学校評価報告

草加市立西町小学校

(令和7年2月5日作成)

1 学校教育目標 ○よく考え 工夫する子(知) ○心豊かで 思いやりのある子(徳) ○たくましく ねばり強い子(体) ＜キャッチフレーズ＞ 「感動いっぱい 夢いっぱい みんな生き生き 輝け西町」	
2 重点目標・努力目標 ○幼保小中を一貫した教育 ○「新しい時代に必要となる資質や能力」を育成する学校 ○ICTの活用 ○確かな学力の定着 ○豊かな心の育成 ○健康な体力づくりと体力向上 ○生活に活かす	3 前年度の成果と課題 成果 ○全教職員の共通理解のもと、学校経営方針に基づいた教育活動が実践された。 ○児童や保護者の思いに寄り添い、丁寧かつ適切な指導に努め、児童の自己肯定感・自己有用感の向上につなげることができた。 課題 ●学力向上における個に応じた指導を工夫し、基礎学力の着実な定着を図る。 ●目標をもち、最後までやり遂げる体験の機会を増やすなど、物事にねばり強く取り組む児童の育成に重点をおき、教育活動の充実を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校務分掌組織を活かした計画立案や課題解決が図られ、組織的な学校運営となっている。 ●学校教育目標である「ねばり強い子の育成」に保護者教職員に課題があると評価しており、今後の教育活動における改善に取り組む。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研究発表会に向けて研修の充実を図ることができた。自己肯定感自己有用感の育成に向けて、研究実践を積み重ねることができた。 ●幼保小中を一貫した教育の充実を図り、教育的効果をより一層高めていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○教職員の連携が的確に行われており、けが・体調不良が生じた際の速やかで丁寧な保護者への連絡が実践されている。 ●避難時における適切な対応について、訓練を通して、児童一人ひとりにより浸透させていく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○全教職員の共通理解のもと、個人情報の適切な管理が実現できている。 ●教材教具の適切な管理を今後も適切に実施する。施設設備の要対応箇所について、今後も関係機関の協力を得つつ適切な対応を進める。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○ホームページや各種便り、学校公開等で積極的に教育活動を公開し、家庭・地域の理解を得ることができた。 ○学校運営協議会で教育活動について意見を受けることで、地域とともにある学校づくりを推進した。 ●地域人材の確保に努め、地域と連携した教育活動の充実を図る。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○中学校区3校全体で研究に取り組み、一貫教育推進のための組織的・計画的な運営が図られた。 ●目指す子ども像の実現に向け、幼稚園・保育園も含め中学校区が一体となって取り組む教育活動の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年交流に関する教育活動が効果的に実践されていた。 ●週課表を改善し、より教育活動の円滑な運営及び充実が図れるよう取り組む必要がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した教科指導の充実を図ることができた。教育計画に基づき、授業時間数を十分に確保し、授業改善を行うことができた。 ●少人数指導、教科担任制の充実など、指導形態の工夫改善が必要である。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳ノートを活用し、家庭と連携した道徳教育が実践された。 ●道徳授業のさらなる改善をするとともに、評価の在り方について一層の充実を図る。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTとの連携を深め、外国語授業の改善充実を図ることができた。 ●ALTとの打ち合わせ時間を確保し、指導の充実につなげる必要がある。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を通して、自己肯定感・自己有用感を育てる特別活動の授業改善を行うことができた。 ●委員会活動やクラブ活動について、活動内容・活動時間をさらに工夫していく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと草加」の学習を推進し、草加の地場産業体験学習や現場見学学習を進めた。 ●児童の興味・関心に応じた学習や体験的な学習を一層推進する。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導・教育相談を中心に組織的に対応し、問題行動等の未然防止に取り組むことができた。 ●児童一人ひとりがあいさつを率先して行えるような取り組みを行う必要がある。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般を通して、充実したキャリア教育が実践された。 ●各教科等におけるキャリア教育の視点を意識した指導の一層の充実を図る。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援コーディネーターや特別支援主任を中心に組織的に対応し、保護者との共通理解のもと特別支援教育の充実が図られた。 ●配慮を要する児童について、校内の情報共有及び組織的な支援を継続する。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な読書活動を計画的に実施し、本に親しむ機会を意図的に設けることができた。 ●積極的な読書活動を工夫し、家庭と連携して、進んで本に親しむ児童を増やしていく。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報主任を中心に組織的に授業改善を図り、充実した情報教育を推進することができた。 ●今後、教育活動全般において、情報モラル教育の一層の推進を図る必要がある。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に人権教育に係る実践を展開することができた。 ●人権感覚育成プログラムの効果的な活用を図る必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	1 学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・親和的な学級集団 ・自己有用感の育成 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・各学力・学習状況調査の結果分析 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学力・学習状況調査において自校の平均正答率が、市・県の平均正答率と度程度または、やや上回る結果であった。 ●算数における基礎基本の確実な定着を目指し、教育課程を工夫し実践する。 ●個に応じた指導のさらなる充実を図る。
	2 心身ともに健康な児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的活動の充実 ・保健学習、保健指導の充実 ・アレルギー対応体制の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○持久走練習や縄跳びに関する取組を実践し、体力向上に努めることができた。 ○きめ細かなアレルギー対応を実施し、アレルギー事故0とすることができた。 ●体力向上の充実を図るため、体育授業における継続的な体力向上の取り組みを充実する。
	3 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各種会議等での情報共有を計画的に実施し、共通理解・共通行動での積極的な生徒指導を行うことができた。 ●いじめ未然防止・不登校児童の解消のためのより一層の生徒指導の充実を図る。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 全教職員の共通理解のもと、学校経営方針に基づいた教育活動が実践された。
- 生徒指導・教育相談を中心に組織的に対応し、問題行動等の未然防止および早期解決につながることもできた。今後も、丁寧な教育相談等の継続、日々の授業の充実により、積極的な生徒指導を行っていく。
- 草加中学校区における「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」に関わる研究を通して、日々の授業改善を進め、各教科、道徳教育や特別活動、情報教育の充実を図り、児童の自己肯定感・自己有用感の向上につなげることができた。
- 総合的な学習の時間を中心に、「ふるさと草加」に根差した教育活動の年間指導計画の作成及び実施に取り組むことで、児童にふるさとへの愛着の心を育みつつある。

6 次年度の改善策

- 学力の向上
 - ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を図る。
 - ・物事にねばり強く取り組む児童の育成に重点的に取り組む。
 - ・読書活動の一層の充実を図る。
- 幼保小中を一貫した教育
 - ・本年度の草加中学校区研究発表会の成果を踏まえ、計画的・組織的に幼保小中を一貫した教育を推進するとともに、具体的な取組を継続しながら、さらなる工夫改善を図る。
 - ・「ふるさと草加」の学習となる教育活動のより一層の充実を図る。